

平成19年度 第2回「海上の森運営協議会」議事録要旨

日時 平成20年3月18日(火) 10:00~12:20

場所 自治センター5階 研修室

出席者 井桁正人委員 内田臣一委員 加藤倫教委員 木村光伸委員 酒井立子委員
鈴木敏明委員 芹沢俊介委員 竹中千里委員 只木良也委員 長江順造委員
松尾 初委員 マリ・クリスティーヌ委員

傍聴者 2名

1. あいさつ

竹中 千里座長(名古屋大学大学院生命農学研究科教授)

伊藤 明氏(農林水産部農林基盤担当局長)

2. 議事

(1) 平成19年度の取組について

座長

・議題の一つ目、平成19年度の取組について、事務局から説明をお願いしたい。

事務局

議題1「平成19年度の取組について」説明

委員

・「森林育成事業」の中の「広葉樹林整備」とは、具体的にどのような整備をされたのか。

事務局

・本数調整伐で、枯れ木、倒木などの整理と、見通しがいいように本数を少し減らした整備を行った。

委員

・それは、裏付けとなる考え方があるのか。倒木に付く昆虫ではあまり良くないとか、基本的な考え方が無ければなかなか難しいと思う。

事務局

・今回は、見通しがいい山を造成するということと、照度を上げようというねらいで行った。

委員

・こちら(あいち海上の森センター)の職員方が海外に行かれたという報告は出ているが、どこかで発表はされているか。

事務局

・海上の森大学の閉校式に、受講生の皆さんに発表させていただいた。ほかに、庁内では伝達講習という形で発表しており、センター1階の展示室に概要版を展示している。

委員

・海外など、いろいろな所へ視察に行かれるということはとても良いことだと思う。比較対象ができてきたり、今までにないアイデアも出てきたりする。特に写真や映像があると良い。ぜひもっとやっていただけると良いと思う。

座長

・これは（海外調査の結果）今後の計画の中の子ども向けの教育というところで反映されるという話、成果につながるものなのか。

事務局

・来年度取り組もうとしている、「幼児の森林体験プログラム」の策定を考えているが、これを参考にしながら、そういったプログラムを作っていきたいと思っている。

委員

・「来館者の撮った写真を資料として利用できるように呼び掛けてみては？」とあるが、計画はあるのか。私は非常にいいことだと思う。海上の森自体のいろいろな写真を集めて、コンクールをやる、展示をする。すると、一般の人も喜ぶと思う。

事務局

・今、センター3階に会議室があるが、ほとんど使っていない部屋になっているので、そこを展示室という形で、場所をお貸しして使っていきたいと思っている。

委員

・視察見学者の中に、小中学校の総合学習で使われているというケースが4件ほどあるが、もっと多くの方に来てもらえるような状況をつくったほうが良いかと思う。
・交通手段が非常に限られているので、公共交通機関を充実させるというような計画はあるのか。

事務局

・総合学習については、瀬戸市の環境教育推進委員会や校長会などを通じて、たくさん来ていただけるように呼び掛けをしていきたいと考えている。
・公共交通機関を入れるということは難しい状況。南門、愛工大の所の入口を開放して、八草から来られた方はそこから入っていただくということにしたいと思っている。それで約10分

は短縮できると思う。

座長

・公共交通機関の予定がないというのは、検討された結果なのか。それとも、まだ検討したことがないのか。

事務局

・おとし、名鉄バス、JRバスなどに土日だけの運行ということで見積もりを取ったが、やはり金額的にまかなえないという状況であった。

委員

・総合学習の話が出たが、今度の指導要領では縮小されるため、あまり期待はしない方がいいと思う。

委員

・入場者数というのはどのくらいを予定されているのか。どういった方々を呼ぼうと考えているのかをお聞きしたい。

事務局

・目標入館者数は、年間3万8000人ということを考えている。
・入館の対象者は、幅広く考えており、いろいろな形で来ていただきたいと思っている。こういう人という目標は、特段ない状況です。

委員

・人を呼ぼうと考えたときに、目的、目標がないと分かりづらくなってくのではないかと思う。
・自然に興味がある方々を集めているようには感じられるが、もっと広く集めたいのならば、もう少し違う取組の方向も出てくると思う。その辺のところはどのように考えているのかお聞きしたい。

事務局

・目的、目標という点では、私どもが行うプログラムに参加いただこうと考えている。
・一般の方については、スタンプラリーやエコマネーセンターなどの呼び掛けで、プログラムに参加しない一般の方にも来ていただきたいと考えている。

委員

・来館者の1日平均88人というのはあまりにも少ないという気がする。
・運営費当たりの、来館者一人に対していくらかかっているかというコスト・ベネフィットは

どのくらいになっているのか。

事務局

・今、数字的には把握していないが、センターは、海上の森の方も管理運営をやっているので、海上の森へ訪れられた方を来館者に加えると相当数になり、そういった指標も必要ではないかと思う。

委員

・今、海上の森運営費については、保全活動と普及啓発なども含めて、来年度、3161万3000円を予定している。

委員

・それを何人で割るのが妥当かなのです。

委員

・それは人件費が入っていない。職員の人件費が多分一番金額的には大きくて、これが一番重要。

事務局

・センターの運営費は、平成19年度は2500万円ぐらいで、平成20年度は3100万円ぐらいで、それプラス人件費という形になると思う。

委員

・去年も申し上げたが、海上地区に入ってくる人の数をきちんと把握しておかなければいけない。

・センターは非常に位置が悪いというのは明らか。銭屋鋼産跡あたりに施設を造れば、もっと人は入ったと思う。現実には海上に来る人のごく一部しか利用されていない。

・海上にどれくらい人が来て、利用しているかということを中心に把握して、県民にPRをしないと、予算執行率という点から言えば非常に厳しい。

・建物への入館者ではなく、海上地区に来る人の数をきちんと調べるということを中心にやっていただきたい。

事務局

・海上の森に来られる方を把握するのは非常に難しく、職員が出向いてチェックするというのもなかなかできない状況。

・類推として、エコトイレが駐車場と里地区に2ヶ所あるが、そのトイレの使用回数で、ある程度使用された方の人数が把握できるので、参考数字として利用者数のカウントをしている。

座長

- ・その参考数字は何人ぐらいになるのか。

事務局

- ・今、資料を持ちあわせていませんので、わかりかねます。

委員

・私が言いたいのは、きちんとデータをそろえて、第三者に対して説得できる情報をそろえておかないと、そのうちひどい目に遭うということ。

委員

・きちんと何人まで出さないでも、おおよそが出ればよい。交通量調査のように、年に何日かやれば分かるはず。

委員

・エコトイレの使用頻度と、一日でも二日でもきちんと入域者数を数えておいて、大体何倍すればいいという数字が出れば、その程度で充分。決して一人の誤差も許されないというわけではない。

座長

- ・またご検討をお願いいたします。

委員

・「海上の森の会」にガイドの要請が時々あるが、恐らくその半数は海上の森に歩きに来られる。それを受け入れるというときに、海上の森の利用者をどう考えるかというのは非常に大事なポイントになる。

・今まで自転車（マウンテンバイク）が随分問題になっていたが、どういう目的でお越しになる方にどういう対応をして差し上げるのか、あるいは、お断りする必要があるのかということ、少し俎上に載せていただけるとありがたいと思う。

・実際にご案内していて、説明をほとんど無視して歩いていかれるということが往々にしてあり、「そういうことは困りますよ」というのは簡単だが、実際には悩ましい問題だと思う。

座長

・海上の森の利用の仕方の検討や、それぞれの対応については、今後どのように検討されていくのか。

事務局

- ・いろいろな体験学習をやっているが、それについては関心があったり興味があったりする方

が参加されていると思う。それ以外にも、「海上の森を歩きたいので案内してほしい」といった要請もたくさんあるので、そういった方については、要望に応じるような形で案内をしていくということになっている。

委員

・歩くだけが無駄だというわけではなく、そういう方も大事だと思う。ただ、きちんと分けて議論をして、対応して差し上げないといけないと思う。

(2) 平成20年度事業計画(案)について

事務局

議題2「平成20年度事業計画(案)について」説明

委員

・事業計画が挙がっているが、この中で、目的、目標といったことがいまひとつわかりづらい。海上の森センターの役目を果たしていく目標的なことをどのように考えておられるのかお聞かせ願いたい。

事務局

・一つは、愛知万博の理念や成果を継承するという取組で、海上の森を愛知万博記念の森という形で位置付けて、将来にわたって適正に保全して活用していくというもの。
・もう一つは、森林や里山に関する学習と交流を通して、身近な自然を守るように保全していただけるような人たちを一人でも多くつくっていききたいということ。

委員

・その理念は分かるが、どういう方々に対してどのようにしていくのかが明確にされていない気がする。
・例えば、5年、10年計画でものを見ていく。子どもに対してはどのような計画で何年までにやっていくのか。また、ハイカーに対してはどのような計画にするのかという具体的な目的、目標を明確にしていくと、事業として分かりやすくなってくると思う。

事務局

・従来、指導者養成講座などは広く浅く学んでいただくということでやってきたが、今年度はユニバーサルプログラムを作ったので、今後は、このプログラムを広く普及していただくような指導者を養成することも考えている。
・大学は、テーマ、コースを決めて開催するが、修了時には活動宣言というのを出していただいて、その後5年間はそれに基づいた活動報告を出していただくことにしている。
・ほかの事業については、海上の森を活用していただいて、身近な自然、里山を体験していただくということが主体で事業を実施しており、なるべく広く、多くの方に知っていただき、学

んでいただくという形で進めている。

- ・今、おっしゃったことについてはもう少し検討をしていきたいと思う。

委員

- ・センター、海上の森の会がやっているイベントに参加される以外でお越しになる、フリーで来られる方々を対象としたプログラムをどれだけ作れるかが重要だと思う。それを計画的にきちんとやっていかなければならない。
- ・平成 20 年度に、瀬戸市が隣接地で公園整備をなさるわけだが、それとの関係をどうするかという話は、きちんと詰めておいていただきたい。愛工大の土地も含めて。
- ・アクセスの問題でも、瀬戸市のコミュニティーバスなど、一体的な行政間の調整というものをきちんとやっていただきたいと思う。

事務局

- ・公園の件では、いろいろ事前の調整などもしており、瀬戸市ともご相談させていただいて、愛工大の土地を開放していただくようなことを働きかけていきたいと思っている。

委員

- ・海外視察は、ぜひここはというところをやっていただければいいと思う。例えば、ニュージーランドのツチポタルのところは、案内する人が、その中に環境負荷というものを取り入れる。それから貴重なものであれば、きちんとデータを処理し、管理して、そして1年以上継続的につないでいくということをやっている。
- ・海上の中心部に2軒、生活しておられる人がいる。今後、私を入れて3軒になってくるが、海上に住み、海上から外を見ている人間の自然観は、合理主義的な自然観とは異なると思う。多度の祭礼も含め、日本人らしい自然観を認識していただきたいと思う。
- ・養成ということは大いに結構なことだと思うが、今、若者の雇用面が非常に不安になっている。せっかくこういうところで優秀な人材を養成したならば、それを最後、雇用につなげていただきたいと思う。
- ・万博に協力して、50年間住み慣れた海上から出て行った人の中に、海上の地質の状態に詳しく、優れた土木技術を持っている方もおられるので、委託業務の中の契約で微妙な問題があるが、ご縁があるならばそういう方も参加させてもらってみてはどうか。海上の隅々まで知っているわけなので、水路整備など、非常に有効な活動ができると思う。
- ・海上の森が環境問題のモデルケースであるとするならば、海上の集落に入るときに、電気自動車のような無公害車というようなものが欲しいと思う。中長期の目標に堪え得るようなものをプログラミングして、県、あるいは海上の森の会も含めてその他の団体と、協議をしていきたい。
- ・多くの人たちが学びの森で学習するということであるならば、フィードバックとして、「ちょっと後片付けを手伝おうよ」というところも必要かと思う。プラスマイナスいろいろあるが、県とも各団体とも連動して増えていったらいいと思う。また、名大の学生たちが一生懸命調査

していたが、こういうところも、われわれと交流できるようになればうれしいとは思っている。

事務局

- ・環境負荷についてはいろいろな面で取り組まなければならないと思っているが、いきなり低公害車を導入することなどは非常に難しい面がある。
- ・いろいろな人材育成をやっているが、雇用まで結びつけるのはなかなか難しい面がある。林業に従事する人の研修の場とかを紹介しながら、そういった方面に行っていただくような方にはご案内させていただきたいと思っている。
- ・海上地区で生活されている方がおられるので、そういった方々の意見もお伺いし、協力していただきながら実施をしていきたい。
- ・昔からの技術を持っておられる方や、もともと海上に住んでおられた方については、今後、いろいろご相談をさせていただいたりしながら、整備等も進めていきたいと思う。

委員

- ・このような施設で、一番望まれる事業は、職員の方が1週間歩いた情報を、土日に速報版として出す。ビジターセンター的なところは大体やっている。
- ・現在職員が週平均何日、海上の中を歩いているかをお伺いしたい。それから、将来的にそのようなことをやっていくべきだと思うが、いかがか。

事務局

- ・リアルタイムの情報は、展示室に白地図があり、そこでその時々情報などは掲示をしている。最近、里山の遊歩施設の鍵の開け閉めに行くときに、今日の見どころというものを、職員が自分で感じたことを持ち寄って、その日に展示室に張り出すこともやっている。
- ・週平均どのくらいやっているというお話ですが、サテライトの方まで鍵開けに毎日行っており、それ以外に事業としてやる場合などもあるので、何日かというものは出ないが、かなりの回数で海上の周りに行っている。ただ、全体をぐるぐる回っているかという、そこまでは時間的に余裕がない状況になっている。

委員

- ・例えば開け閉めに行くのに、どのようなルートで行っているのか。

事務局

- ・短時間で済ませなければいけないので、道を車で通っていくという状況になっている。

委員

- ・それでは県民のニーズには応えられないと思う。

事務局

- ・ 今後は、職員がもう少し森の方を回るといことも考えていきたいと思う。
- ・ 海上の森の会の方が、毎週木曜日に生物調査をやっており、その報告を頂いて、展示に生かしている。
- ・ 来年度は海上の森の会の方にもご協力いただいて、サテライトに情報なども展示できるようにしていきたいと思っている。

委員

- ・ 自然調査というのは、既存のネットワークというものがあり、それと無関係にやられると、ある意味では、単純に自然を踏み荒らしているだけのことになる。
- ・ 本来なら、県が博物館を持って行くべきだが、今はそれがない。
- ・ 行政、あるいは行政と直接タイアップしているところがやっている調査というのは、往々にして、単なる自然荒らしになってしまう。
- ・ 自然調査に関しては、きちんと連携をとってやっていただかないと、むしろやらない方がましだということになるので、この点によく注意していただきたい。

事務局

- ・ 自然調査と言っているが、内容的には、林道・歩道を歩いて、いつどの花が咲いたとか、どんな鳥の鳴き声が聞こえたとか、どんな昆虫が見られたか。そういった、自然の動きの情報を頂いているというもので、学術的な調査をお願いしているというものではないので、誤解のないようお願いしたい。

委員

- ・ 指導者養成講座といったことをやられているが、これは海上の森の運営に対して役立っていく人なのか、それとも、他の場所で指導される方なのか。その辺りを明確にすると、システムとして上手くいくのではないかと思う。

事務局

- ・ 第一義的には、海上の森にかかわっていただきたいということでやっている。
- ・ 昨年、卒業された方にはOB会をつくっていただいて、自主的な自然観察を自分たちで勉強しようということで取り組んでいただいた。
- ・ ここで言う講座等は、単に海上の森だけにかかわっていただく方を養成するというのではなく、自分の地域、活動団体などで活発にやっていただく方も考えている。

委員

- ・ 全般の人も必要だが、指導者がその場所で育っていくという必要が、長年みていかないと分からない。
- ・ 同じ場所で同じように見ていくということは、大切な部分が結構ある。

- ・指導者の方々がどういう力を持っていて、どうやって今後利用していくのかということも含めて考えていったほうが、無駄がない。
- ・ターゲットを明確にしていかなないと、興味を持ったときにだけやられるのでは、せっかく指導者として育ててもらったときに困るのではないか。

事務局

- ・言われるとおりだと思うので、来年度は漠然とではなく、今年開発したユニバーサルプログラム、身体の障害者等も参加いただけるようなプログラムを指導できる人を養成して、その年には実際にプログラムを実践していただけるような方向に持っていきたいと思っている。
- ・ほかの講座についても、目的のめりはりをきちんとつけて考えていきたい。

委員

- ・今は行政主導型ではなく、参加型だと思う。本来は、県が育てるのではなく、育てくださった方々が自分たちのボランティアグループをつくり、海上の森で自分たちが何をしたいかを決めていただく。そして、そこを支えながら、なおかつ調整する係りとして海上の森センターがあるのではないかと思う。
- ・私たちは、次の世代に海上の森を渡していかなければいけないので、その子どもたちが育ってくれるために、海上の森センターと海上の森大学で勉強されている方々が何かボランティアグループをつくると、すごくいい会合になると思う。
- ・飯山市では、風景街道を造っているが、地元の参加がすごい。愛知県の市民の方々は、海上の森を上手に利用していないので、もっと海上の森センターを上手に活用していただけるよう、PRがあったり、自分のボランティアグループで、「海上の森をこうしてほしい」と言ってくださるような、私たち一人一人が活動できる環境づくりをしなければいけないのではないかと思う。

委員

- ・それは市民の立場であり、県が事業をする立場とは別だと思う。
- ・せっかく事業を始めるのなら、それが有機的に活用されていかないと意味がないのではないかと思う。

委員

- ・スポンサーを連れてきて利益が出てしまうと、今度は予算を切られてしまったりする問題もあると伺ったので、行政の立場として、恐らく、海上の森センターの方もジレンマとして持っているのではないかと思う。

委員

- ・日本人の性格として、お上のやることについてくというところが結構あるのではないか。

委員

- ・県の立場の見方というのは、ここの海上の森については、「あいち海上の森条例」というものがある、それに基づいて運営されているかと思っている。
- ・第三条の基本理念は、「海上の森は、森林、農地、水辺地等における多様な自然環境がその地域の自然的社会的条件に応じて、適正に保全されなければならない」とあり、これに基づいて、いろいろな事由が作られているのかと思う。条文の中から説明できる部分が県側としてあるのではないかと思う。
- ・条文にはいろいろな項目があるが、それを手前勝手に解釈すると、市民グループを支援していくという立場は、県としてはあるのではないかと感じている。

委員

- ・お役所的に言えばそうなのだろうと思うが、われわれとしてはとても不満である。
- ・われわれの活動のバックヤードとして、事務所にたくさんの方があふれて、パソコンに向かっているいろいろなことをやっていらっしゃるのは大変ありがたいが、センターの皆さんが率先して山を歩き、そこで市民や県民と出会い、そこで話をし、住民とも話をし、ということの繰り返しが大変だと思う。山を歩くことを仕事にしてほしい。

事務局

- ・おっしゃるとおりだと思っているので、いずれ県としては、日々の情報収集などに向けていきたいと考えている。
- ・既存の事業は市民団体の方や NPO の方にお任せする方向で、もう少しセンターとしての基本的な業務を伸ばしていきたいと考えている。

委員

- ・平成 20 年度事業予算で、保全活動・維持管理費が減っているが、私が一番期待しているところなので、ほかが目立たないわけではないが、ぜひ増額していただきたい。そして、私たちも一緒にやれるものはどんどんやっていきたいとは思っている。なぜ減ってしまったのか。

事務局

- ・林道・作業道・歩道の維持管理、境界伐開、草刈り、沈砂地浚渫等、経常的にやっていく事業については少し節約が入り、全体で下がっているということになっている。森林整備などについては、対前年並みに予算的には付いている。

委員

- ・四ツ沢から東に進んでクルミ戸地区の方を歩いてみると、道路の右側のところが丘のようになっているが、実は産廃で、撤去したいと思っている。昔は、つづら折りの見事な景観のところだったのでがっかりしている。私も協力するので、保全活動・維持管理費を増やしていただいて、見苦しいあの場面を撤去してはいかがか。

事務局

- ・またいろいろと相談させていただきたい。

座長

・平成 20 年度の海上の森保全活用事業に関していろいろご意見をいただいたが、全体として、海上の森を活用するという視点での事業の説明が欠けているというような気がするので、森を活用する方々にとって、この事業がそれぞれどういう意味があるのかということを確認していただきたい。

・海上の森センターだけでなく、県が管理しているところ以外の場も含めて、全体の中での海上の森センターが果たす役割というようなことも明確にして、今後活動していただきたいと思う。

・個人的な意見だが、人材の問題は、今後、人材バンクのような形でデータベースを作っておけば、海上の森だけではなく、愛知県の中のいろいろな事業でもご活躍いただけるのではないかと感じた。

(3) 森林整備計画方針の検討

事務局

議題3「森林整備計画方針の検討」説明

委員

・生物多様性条約の第 10 回締約国会議（以下、C O P 10）との関係はどうなっているのか。愛知県はこのC O P 10 に向けて、どういう体制で臨むのか説明しなければいけない。

・万一、C O P 10 の開催地が名古屋にならなくとも、「第三次生物多様性国家戦略」が先日出たので、海上の森の森林整備基本計画とどのように対応するのか。説明できる段階なのか。

事務局

・C O P 10 については、すでに体制ができています。

・直接的には、あいち海上の森センターにC O P 10 の事業がかかわってくるということは今のところはないため、それに対応したものは考えていない段階。

・生物多様性国家戦略についての整合は、そこまでは考えてはいないが、大きな柱として据えた上で計画を作っていくことになる。

委員

・海上の森の南西部で、随分シイの樹が入り込んで、樹種転換が起こりかかっている。特に、カシノナガキクイムシなどで高木がなくなっていきそうになってきたため、その後どういう展開をするのか、注意深く見なければいけない。

・この数十年間で、驚くほどの早さで樹種転換が起こっているため、そういうことを含めて、

広葉樹の森をどうするのかという話はきちんと詰めていただきたい。

委員

- ・「自然の推移に委ねることを基本とし」とあるが、そうすると、シイ・カシの林になってしまふことを認めることになる。しかし、それでは海上の里山は生きていけないと思う。
- ・人が喜んで入り込める林を維持するというのが、街の周辺の林の任務だろうと思う。そのためには、積極的に人手を入れるということを基本姿勢にしてほしい。
- ・生物多様性を重視するのか、ある特定の貴重種、希少種に注目するのは、場所ごとによって使い分けなければいけない。
- ・ただ、コナラ・アベマキの林を残すというのは誰が決めたわけでもないで、その辺は十分議論していただきたい。例えば、カシノナガキクイムシの被害が海上の森でも出てきていると聞いたが、そうすると、「コナラを大事にしよう」というのは成り立たなくなってくる。
- ・海上の森は広葉樹林で注目されている所なので、広葉樹林の取り扱いが多様なものがあるという基本姿勢を示して欲しい。
- ・針葉樹の間伐対象森林は 60 年生以下という説明だったが、平成 27 年までに 100ha のうち 35ha だけ間伐するのか。単純な疑問として、8 年後には、1 回目の間伐をやったやつがまた 2 度目の間伐が入ってきてもいい年になってくるので、間伐計画はもう少し面積を広げてみてはどうかと思う。

委員

- ・春日井のコナラは大体 46 年生で、コナラで長生きということ、最高で 150 から 160 年なので、100 年スパンで考えてみると、今半分ぐらいまできている。それが将来維持できるか考えると、もっと前に手が入ってもいいかと思う。
- ・ただ、大きくなった木を切ってしまうと、市民からの反論も大きいので、その辺のところはコンセンサスが必要な部分が出てきているという気はある。
- ・海上の森では 40 年を過ぎている森がほとんどで、若いうちに切らないと萌芽しないので、維持をしようとする苗を植えるしかないが、ものすごく時間がかかってしまう。

委員

- ・維持に時間がかかるという問題で、大径木化すれば萌芽が期待できないので、ある段階までいったら実生を生かして後継ぎをこしらえていけないといけないと思う。

委員

- ・計画的な施業が要るのかと思っている。

委員

- ・今の段階は広葉樹林の現状をどうしましょうかという一区切りができてから、もう少しじっくりと、知恵のある人が集まって考えてみてはどうか。

事務局

・コナラ・アベマキが大きくなっている所を、小面積だが試験林として一度伐採してみて、その後どのような変化が生まれるのかといった、実験的な取組も併せてやっていきたいと思っている。

委員

・大きな木を切ったら市民から反論があるのではないかと思うが、森は大きな木がたくさん倒れて成り立っているようなものなので、もし倒れなかったら倒してやるというのも、乱暴だが考えなければいけないかもしれない。

委員

・仮に火を付けて焼き払うくらいのつもりでやったとしても、恐らく現実問題として大半は自然の遷移のままに動かざるを得ない。逆に言えば、そのくらい過激なつもりでやらなければ、とても動かない。

・木を切ることを恐れないでいただきたい。特に、せき悪地を維持するためには切らなくてはいけない。

委員

・海上の森というのは世界的に非常に有名になった森だが、来たときのお客様の反応は非常に悪い。あまり美しい森というように、私も思えない部分がある。

・海上の森が、いろいろなところに発表していく森だとしたら、やはり人が入って気持ちのいい森を維持していかななくてはいけないと思う。

・森林としての学問的な部分だけではなくて、人の心に訴えるような森を造るということも考慮して整備をしていただけるとうれしいと思う。

委員

・海上の森の全体のことを考えると、川がポイントになる。例えば、シデコブシが生えているような所は、かつて崩壊が起こって、それで植生がなくなって生えてきた。そうすると、溪流といった所の管理を今後どうしていくのかをまとめていただきたい。

委員

・ぜひともひとつお願いしたことは、物見山を物見山にしていいただきたい。物見山の頂上は基本的に皆伐して、ススキ草地にしてほしい。物見山という地名から判断すればあの辺りは茅場であったはず。

・現在、海上で里山の要素として明らかに欠けているのは茅場で、昔は尾根筋に入会地的な茅場というのがあった。

委員

- ・景観のために木を切るということも大切なことである。神戸の裏山の六甲山では、森林が生えすぎて困っている。この間も議論があり、茅場を残したり、展望の利く所は木を伐りましようという話がある。人たちが森を使っていくためには必要なことだと思う。
- ・残すものはきちんと残しておいて、伐るべきところは伐るとというのが私自身の意見。

委員

- ・今の森林に関して言えば、防火帯をもう少し管理してほしい。

委員

- ・市民参加の話も含めて、海上の森を愛してもらいたいということが大事だと思う。
- ・以前、私の友人が、お子さんとお孫さんを連れて海上の森に歩きに来たとき、子どもが疲れてしまい、ほとんど見るができなかったようなので、恐らく海上の森を歩いている家族というのは、途中まで行って、あきらめて帰ってきている方が多いのではないかと思う。
- ・海上の美しいものを子どもに見てもらうためには、例えば土曜日や日曜日など日にちを決めて、ピストン形式で現場まで連れて、散策できるような環境づくりをする必要があると思う。
- ・里山のような懐かしい風景のところにもいけるようなアクセシビリティを、子どもや高齢者の方々のために考えていただけるといいかと思う。

委員

- ・人工林の手入れされた森というのはやはり美しい森になる。美しい森だと生産性が悪いとは限らないので、その辺のところを配慮していただきたい。
- ・土地によって、適した間伐強度は変わってくると思うので、計画で考えていただけるとよりよいのかと思う。

委員

- ・「平成 20 年度取組の重点」の中に、「企業との協働のさらなる推進」というものがあったが、社会的貢献等を希望している企業を、間伐等の事業の中に取り入れるという考えが今後あるのかどうかということを伺いたい。

座長

- ・今までの意見すべてに対して、センターから簡単にお願ひしたい。

事務局

- ・今、頂いた意見については、基本的計画づくりに生かしていきたいと思う。物見山の茅場作りや防火帯も考えていきたい。
- ・間伐については、平成 27 年までやって終わりではなく、その後もやっていくが、緊急を要する所は早めにやろうという考え方になる。

- ・企業連携については、今話があるのは間伐をしたいということなので、企業の方にも一区画お願いして、間伐をやっていただこうと考えている。
- ・子どもが遊べるような場所については、冒険の森というのも造り、遊んでいただけるようなことも考えていきたい。

委員

- ・今、大問題となっている竹林は敵と見るのか、それとも味方と見るのか。

事務局

- ・昔からの場所は竹林として整備をして、残していきたい。針葉樹など雑木の方へ侵入しているところは排除していく方向でいきたいと思っている。

(4) 森林モニタリング調査について

事務局

議題4「森林モニタリング調査について」説明

委員

- ・動物はもう行わないのか。

事務局

- ・ムササビについて引き続き来年もまた行う。

委員

- ・森林モニタリング調査は、何年ごとぐらいで何年続けるつもりなのか。

事務局

- ・平成20年と21年、2年続きでやり、それを5年おきにやっていこうと考えている。

委員

- ・平成何年まで。

事務局

- ・今のところはずっとやるつもりでいる。

委員

- ・モニタリングというのは時間との勝負で、長期であればあるほどすばらしい。誰がやるのかもきちんとしていただきたい。

委員

- ・湿地の部分は、海上の森センターを上った上流の湿地のところだけだが、ほかの、東海要素の多い植物がたくさんある所のモニタリングはどのように考えられているのか。
- ・自然環境保全の方の計画との関係はどうなっているのか。

事務局

- ・18年から19年に湿地の調査を行い、20年から21年は森林で、その後繰り返しこのような形でやっていくため、湿地についてはまた23年度に調査を行う予定。
- ・湿地は湿地周辺の環境調査になるが、森林の方はもう少し広く、森林の部分に重点を置いて行うということになる。

委員

- ・湿地だけでなく、周りの森も関連してきているような気がする。その辺のところをどういように見ていくのかということも必要だと思う。

事務局

- ・それについては、湿地の調査の内容の中に加えて報告も頂いているので、詳しく見ていきたいと思っている。

座長

- ・どうも長い時間ありがとうございました。

事務局

- ・これをもちまして、本日の会議を終わらせていただきます。長時間の間、どうもありがとうございました。

閉会